



## 体育授業におけるリーダーシップ機能が学習成果に及ぼす影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2008-05-21 キーワード: 作成者: 城後, 豊, 中島, 寿宏, 大浦, 浩, 前川, 豊志 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00004936">https://doi.org/10.32150/00004936</a>

## 体育授業におけるリーダーシップ機能が学習成果に及ぼす影響

城後 豊・中島 寿宏\*・大浦 浩\*\*・前川 豊志\*

北海道教育大学札幌校保健体育科研究室

\*北海道教育大学大学院保健体育科研究室

\*\*恵庭市立恵明中学校

### Effects of result learning depend on leadership function in physical education class

Yutaka JOGO Toshihiro NAKAJIMA\* Hiroshi OHURA\*\* Toyoshi MAEKAWA\*

Health and Physical Education Laboratory, Sapporo Campus

Hokkaido University of Education, Sapporo 002-8502

\*Health and Physical Education Laboratory, Graduateschool of Education(Master's course)

Hokkaido University of Education, Sapporo 002-8075

\*\*Keimei Junior High School run by Eniwa City

Keimei Junior High school, Eniwa 061-1408

### Abstract

The purpose of this study was to examine the effects of result learning depend on leadership function in small group. Concrete, the result learning compare between establishes a leader in group and no establishes a leader in group, method the same program. There was that measure the result learning, the interaction behavior in physical education class on the student learning behavior (Academic Learning Time in Physical Education ; ALT-PE) and way of expresstion on student's formative evaluation to physical education class and instrument for the student evaluation of the instructional effectiveness in physical education class.

Main findings were as follows ;

- 1) "Result of ALT-PE" showed "ALT-PE" ; 48.2%, establishes a leader in group. "ALT-PE" ;39.2%, no establishes a leader in group. There results were high vale with establishes a leader in group.
- 2) The group that was established a leader was higher than the group that wasn't established a leader in way of ecpresstion on student's formative ebaluation to physical education class and in instrument for the student evaluation of the instructioal effectiveness in physical education class.

## I. はじめに

学習集団の中には<sup>6)9)</sup>、成員が存在する。そして、それぞれの成員が様々な機能を分担し、責任を果たすことで、学習の目標や課題を解決したり、達成したりすることができる。また、集団が集団として機能するためには個が相互に関係することが重要である。このような集団内の機能についてはリーダーシップ機能があげられる。本小論では<sup>14)</sup>、リーダーとは指導者のことであり、リーダーシップとは指導者が集団を目標や課題の達成に向かわせる機能のことである。このリーダーシップ機能は集団を集団として存続させるために必要な機能である。小林らは<sup>4)</sup>、リーダーシップ機能の発達はそのまま集団の発達水準を示すと報告しており、集団内のリーダーシップ機能の重要性を確認している。また、丹羽らは、「リーダーが成員の態度変容に及ぼす影響には、集団の形成維持と関係して、あるいは、成員の態度形成への影響それ自身として重要である」<sup>15)</sup>と述べている。

ところで、学校における体育の授業では、いくつかの小集団に分かれて学習を進める場面が多く見られる。特に、球技の領域ではゲームを行う場合にチームとして小集団の形成が必要となる単元が多い。このような場合に、その小集団内の集団としての機能が発達することが集団の学習成果の向上には重要である。加えて、前述したリーダーシップ機能が存在するか、また、リーダーシップ機能が機能することで、その集団の目標を達成するための働きに影響を及ぼすと考えられる。

そこで、本研究では体育の授業の中で形成された小集団内にリーダーを設定することで、どのように学習成果に影響を及ぼすかを検討することを目的とする。具体的には、小集団内にリーダーを設定した授業とリーダーを設定しない授業を同様のプログラムで行い、その学習成果を比較する。学習成果の測定は、体育の課題従事時間観察法 (Academic Learning Time in Physical Education; ALT-PE)による観察、子どもによる形成的授業評価、生徒の態度評価による体育授業診断法によって行った。

## II. 方法

## 1. 対象授業及び期日

観察・分析の対象授業は恵庭市立恵明中学校における体育授業 (2年1・2組, 2年3組) で、期日は1998年7月13日から1998年7月15日であった。授業は「球技」領域におけるバスケットボール単元の「なか」の運動学習が中心となる活動であった。

分析においては、小集団内のリーダーシップ機能が授業の学習成果に影響を及ぼすかを検討するために、次のような2つ実験授業の比較から検討した。

(1) 小集団内にリーダーを設定したクラス (2年1・2組: 男子35名) : この体育授業は、小集団に分かれて学習を進める形態であり、教師が小集団内に無作為で1名の生徒をリーダーとして指名した。

(2) グループ内にリーダーを設定しなかったクラス (2年3組: 男子17名) : この体育授業は、小集団に分かれて学習を進める形態であり、特にリーダーを指名しない授業であった。

なお、2つの対象授業はどちらも同様の展開内容で行われた。また、対象授業は同等の条件を維持するためにどちらも午前中に行われた。

## 2. 授業成果の診断

小集団内にリーダーを設定したクラスと、設定しなかったクラスでの学習成果の比較を行うため、以下の観察法、評価法、診断法から学習成果を検討した。

(1) 体育の課題従事時間 (Academic Learning Time in Physical Education : ALT-PE) 観察法<sup>10)</sup>

(2) 子どもによる形成的授業評価<sup>1)2)13)</sup>

(3) 生徒の態度評価による体育授業診断法<sup>11)</sup>

## 3. 授業の観察と調査

(1) 子どもの課題従事時間の観察

授業中における子どもの課題従事時間の観察にはALT-PE観察法<sup>10)</sup> (Academic Learning Time in Physical Education) を用いた。ALT-PEの観察法には<sup>8)12)</sup>、高橋によって詳説されたALT-PE観察

法を、岡沢らが簡便化した方法により、1台のVTRで収録し、後に研究室で観察・記録を行った。授業中の生徒行動は、表1に示した3次元21カテゴリーからなるALT-PE観察法に従って記録した。観察の対象には3名の生徒が無作為に抽出された。観察は授業全体を48秒一単位時間とし、6秒で観察を行い、次の42秒で記録し、次の生徒を捜すという作業を行った。つまり、48秒毎に対象生徒を変え、144秒（2分24秒）で3名が一巡するように観察された。なお、6秒間に2つ以上のイベントが観察された場合にはALT-PEに有利なイベントが優先的に記録された。

記録の方法は、第一に「内容次元」を観察し「一般的内容」もしくは「体育的内容」に分類する。それぞれの下位カテゴリーに記録される。第二に、「体育的内容」に分類された場合、「学習の次元」で「従事」、もしくは「非従事」を判別し、下位カテゴリーに分類される。第三に「困難度の次元」で3段階で評価・記録する。

このようにして得られた各カテゴリーのイベント数を授業の全体単位数に対する割合で示した。そして、「困難度の次元」で「容易に成功」の割合をALT-PEの値とした。さらに、ALT-PEの下位カテゴリーとして、「運動のALT-PE」と「主運動のALT-PE」を算出した。「運動のALT-PE」とは、体操・トレーニングを含んだ運動に関するALT-PEの値である。また、「主運動のALT-PE」とは、体操・トレーニングを含まない中心教材（今回の授業では「バスケットボール」に関する運動がこれにあたる）の運動に関するALT-PEの値である。分析は3名で行われ、全てのカテゴリーにおいて分析者相互間の一致率が80%以上確保されるまで訓練された分析者<sup>2)</sup>である。

#### (2) 子どもによる形成的授業評価

授業成果を判断する指標として、高橋ら<sup>12)13)</sup>によって標準化された「子どもによる形成的授業評価」を適用した。これは、授業終了後、実際に体育授業を受けた子どもたちに「形成的授業評価票」を配布し、その授業に関わって評価させるものである。回答は、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択で行った。データ処理は、「はい」に3点、「いいえ」に1点、「どちらでもない」に2点を与え、総合得点の

平均点、各次元・各項目の平均点を算出した。さらに、算出した平均点を該当する評価基準表<sup>13)</sup>に照らし合わせ、その授業について5段階で評価した。

#### (3) 生徒の態度評価による体育授業診断法

授業成果を判断する指標として、生徒の態度評価による体育授業診断法を適用した。授業終了後、小林<sup>3)</sup>が作成した「体育授業診断法」を、高橋<sup>11)</sup>が修正・構造化した調査票を用いて行った。

各項目ごとに○（1点）と×（1点）の数の差を求め、その値を被調査者数で割り、小数以下第二位まで計算する。この値が項目点である。各次元に含まれる項目の項目点の和を算出し、「各次元の学級態度スコアに関する診断基準<sup>11)</sup>と照らし合わせ、各次元のランクを5段階で評価した。

### 4. 統計処理

小集団内にリーダーを設定したクラスと、リーダーを設定しなかったクラスの形成的授業評価、及び、生徒の態度評価に関しては、Studentのt-testを行った。有意水準の決定は、危険率を5%に設定した。すべての統計処理は、Stat View 4.0を用いて行った。

## Ⅲ. 結果

### 1. ALT-PEの結果

ここでは、体育授業における小集団内のリーダーシップ機能が、ALT-PEに影響を及ぼしているかを検討するために、体育授業の際に小集団内にリーダーを設定したクラス（1・2組）とリーダーを設定しなかったクラス（3組）のALT-PEの値の差異について分析を行った。表1には、リーダーを設定したクラスとリーダーを設定しなかったクラスのALT-PEの結果を示した。

内容の次元の「一般的内容」では合計値、各カテゴリー値ともに大きな違いは見られなかった。「体育的内容」の値は、「合計」値では大きな差異は見られなかったが、「個人技能練習」、「集団技能練習」の値がリーダーを設定したクラスでは16.7、5.6であるのに対し、リーダーを設定しなかったクラスで

表1 ALT-PEの値(%)とその時間

			リーダーあり(1・2組)		リーダーなし(3組)		
			%	時間	%	時間	
内容の次元	一般的 内容	待機	5.6	2分30秒	9.8	4分1秒	
		移動	7.4	3分20秒	0.0	0秒	
		マネージメント	3.7	1分40秒	5.9	2分24秒	
		休憩	0.0	0秒	0.0	0秒	
		非学問的指導	0.0	秒	0.0	0秒	
		合計	16.7	7分30秒	15.7	6分26秒	
	体育的 内容	個人的技能練習	16.7	7分30秒	29.4	12分4秒	
		集団的技能練習	5.6	2分30秒	17.6	7分15秒	
		ゲーム	0.0	0秒	0.0	0秒	
		体操・トレーニング	7.4	3分20秒	5.9	2分25秒	
		知的活動	24.1	10分49秒	21.6	8分51秒	
		社会的活動	24.1	10分49秒	9.8	4分1秒	
		他の運動活動	3.7	1分40秒	0.0	0秒	
		合計	83.3	37分28秒	84.3	34分37秒	
学習の次元	学 習 非 従 事	合間	1.9	50秒	0.0	0秒	
		待機	11.1	4分59秒	15.7	6分26秒	
		課題からはずれている	5.6	2分30秒	0.0	0秒	
		合計	18.5	8分19秒	15.7	6分26秒	
	学 習 従 事	運動への従事	24.1	10分49秒	47.1	19分19秒	
		間接的活動	16.7	7分30秒	0.0	0秒	
		認知的活動	24.1	10分49秒	21.6	8分51秒	
		合計	64.8	29分8秒	68.6	28分10秒	
困難度の次元	容易に成功(ALT)	33.3	14分59秒	23.5	9分40秒		
	どちらともいえない	16.7	7分30秒	13.7	5分38秒		
	大きな失敗・困難	0.0	0秒	15.7	6分26秒		
ALT	ALT-PE	33.3	14分59秒	23.5	9分40秒		
	運動のALT	7.4	3分20秒	5.9	2分25秒		
	主運動のALT	11.1	4分59秒	17.6	7分15秒		
授業時間				44分57秒	授業時間		41分3秒

はそれぞれ29.4, 17.6と大きな差が見られた。また、「社会的活動」の値が、リーダーを設定したクラスでは24.1であるのに対し、リーダーを設定しなかったクラスでは9.8であり、リーダーを設定したクラスに顕著に高い値が見られた。

学習の次元の「学習課題に非従事」では、合計値、各カテゴリー値ともに大きな差異は見られなかった。「学習課題に従事」では合計値には大きな差異は見られなかったが、「運動への従事」の値がリーダー

を設定したクラスが24.1に対し、リーダーを設定しなかったクラスが47.1であり大きな違いが見られた。また、「間接的活動」の値では、リーダーを設定したクラスが16.7に対し、リーダーを設定しなかったクラスは0であり、際だってリーダーを設定したクラスが高い値を示した。

困難度の次元では、「容易に成功(ALT)」の値がリーダーを設定したクラスでは48.2でありリーダーを設定しなかったクラスの39.2に比べ若干高い値を

示した。また、「大きな失敗・困難」の値が、リーダーを設定したクラスが0に対しリーダーを設定しなかったクラスでは15.7と高い値が見られた。

### 2. 形成的授業評価に関する結果

表2には、形成的授業評価の結果を示した。形成的授業評価では、全体の平均点がリーダーを設定したクラスが2.48で評価が3、リーダーを設定しなかったクラスが2.32であり評価が2で、有意な差が認められた。次元別にみると、「意欲・関心」の次元で、リーダーを設定したクラスが平均2.47で評価が2、

リーダーを設定しなかったクラスが平均2.32で評価が1であった。しかし、この次元に関しては有意な差は認められなかった。「協力」の次元ではリーダーを設定したクラスが平均2.64で評価が4、リーダーを設定しなかったクラスが平均2.24で評価が2であり、有意にリーダーを設定したクラスの値が高くなっていた。項目別にみると、「仲良く学習」の項目がリーダーを設定したクラスが平均2.47で評価が3、リーダーを設定しなかったクラスが平均1.82で評価が1であり有意な差が認められた。

表2 形成的授業評価の結果

次元	項目	リーダーを設定したクラス (1・2組)				リーダーを設定しなかったクラス (3組)			
		項目平均	平均	次元平均	評価	項目平均	評価	次元平均	評価
成果	1. 感動の体験	2.94	5	2.43	3	2.76	5	2.35	3
	2. 技能の伸び	2.72	4			2.82	5		
	3. 新しい発見	1.61	1			1.47	1		
意欲・関心	4. 精一杯全力の運動	2.28	3	2.47	2	1.82	1	2.32	1
	5. 楽しさの体験	2.67	3			2.82	3		
学び方	6. 自発的学習	2.50	2	2.42	3	2.59	4	2.35	3
	7. めあてをもった学習	2.33	3			2.12	2		
協力	8. 仲良く学習	2.47	3	2.64	4	1.82	1	2.24	2
	9. 協力的学習	2.81	4			2.65	4		
全平均点		2.48		3		2.32		2	

### 3. 生徒の態度評価による体育授業診断の結果

表3は、高橋らが作成した体育授業診断法を用いて調査を行い、診断基準に照らし合わせた診断結果である。楽しさ次元では、「心理的充足」のなかの「こころよい興奮」が、リーダーを設定したクラスが0.08で標準値を示したのに対し、リーダーを設定しなかったクラスでは0.59で標準値以上であり、有意な差が認められた。楽しさ次元の態度スコアの診断では、リーダーを設定したクラスが「B」で、リーダーを設定しなかったクラスが「A」であった。成果次元では、「体力づくりの方法」がリーダーを設定したクラスが標準値であったが、リーダーを設定しなかったクラスでは標準よりも高い値を示した。また、「チームワークの発展」では、リーダーを設定したクラスが標準値であるのに対し、リーダーを

設定しなかったクラスは標準よりも低い値を示した。成果次元の態度スコアはリーダーを設定したクラス、リーダーを設定しなかったクラスともに「B」であった。先生次元の下位項目では特に差異はみられず、先生次元態度スコアはリーダーを設定したクラス、リーダーを設定しなかったクラスともに「A」であった。仲間次元では、リーダーを設定したクラスが5項目すべて標準値であるのに対し、リーダーを設定しなかったクラスでは「みんなの活動」、「利己主義の抑制」、「永続的な仲間」で標準よりも低い値を示した。特に「利己主義の抑制では」有意に低い値であった。仲間次元態度スコアは、リーダーを設定したクラスがC、リーダーを設定しなかったクラスがDであった。

表3 態度診断結果

次 元		項目番号	項 目	リーダーあり	リーダーなし
楽 し さ	愛 態 好 度 的	1	授業が好き	○	○
		2	授業を休みたくない	○	○
		3	生涯スポーツ		
	心 理 的 充 足	4	積極的活動意欲	○	○
		5	心身の緊張をほぐす	○	○
		6	こころよい興奮		
		7	集団活動の楽しさ	○	○
		8	がんばった満足感	○	○
「楽しさ」態度スコア				B	A
成 果	運 動	9	体力づくり	○	○
		10	体力づくりの方法		
		11	キビキビした動き	○	○
		12	技能の向上	○	○
		13	正しい運動の方法	○	○
		14	運動の基本的理論	○	○
	社 会 的 行 動	15	チームプレーの方法	○	○
		16	チームプレーの発展	×	
		17	マナーの学習	○	○
		18	チームワーク発展		
19	友達との教え合い	○	○		
20	協力の習慣	○	○		
「成果」態度スコア				B	B
先 生		21	熱心な指導	○	○
		22	生徒の意見を取りあげる	○	○
		23	ユーモアで楽しい		
		24	教え方・すすめ方	○	○
		25	適切な助言	○	○
「先生」態度スコア				A	A

#### IV. 考察

##### 1. ALT-PEについて

奈良県下の5中学校、81授業（現職教師）を対象とした高橋ら<sup>14)</sup>の報告では、内容次元の体育学習と直接関係のない「一般的内容」は授業全体の34%を占めていた。しかし、今回行った調査ではリーダーを設定したクラスが16.7%、リーダーを設定しなかったクラスが15.7%とどちらも低い値を示している。また、高橋の報告では<sup>12)</sup>、学習次元の「学習課題に従事」の割合が、27.6%と全体の3分の1を割っているのに比べ、今回観察された体育授業では、リー

ダーを設定したクラスが64.8%、リーダーを設定しなかったクラスが68.6%とかなり高い値を示していた。このことから、今回の2つの授業は、どちらも生徒の運動時間量が多く確保されていたことがわかる。

次に、今回の結果をカテゴリー別に検討すると、まず、内容次元の「個人的技能練習」、「集団的技能練習」においてリーダーを設定したクラスに比べ、リーダーを設定しなかったクラスの方が大きく高い値を示した。また、「社会的活動」でリーダーを設定したクラスが、リーダーを設定しなかったクラスよりも高い値であった。この原因として第一に考え

られるのが、リーダーを設定したクラスでALT-PEの観察に抽出された生徒のひとりに小集団のリーダーが含まれていたことが考えられる。このリーダーは、小集団内の生徒に技能に関するアドバイスやフィードバックの働きかけを多く行っており「社会的活動」が多くなっていた。その分、このリーダー自身が技能練習をする時間が少なくなっていたと考えられる。学習次元の「運動への従事」が、リーダーを設定したクラスに比べ、リーダーを設定しなかったクラスの方が大きく高い値を示したことも、同様のことが原因と考えられる。加えて、観察対象となったこのリーダーがシュート練習といった技能練習の際に、他の生徒にボールを渡すといった補助的な活動が多くあったために「間接的活動」の値も高くなっていた。ところが、ALT-PEの値には若干の差異がみられた。学習次元の「学習課題に従事」に関しては、リーダーを設定したクラスと設定しなかったクラスに大きな差はみられなかったが、困難度の次元では、リーダーを設定したクラスがリーダーを設定しなかったクラスに比べ、ALT-PEで高い値を示しており、また、「大きな失敗」で低い値を示していた。困難度の次元では、ALT-PEが高橋の報告<sup>12)</sup>では、25.0%であるのに対し、今回の結果ではリーダーを設定しなかったクラスが23.5と、ほぼ同様の結果を示した。しかし、リーダーを設定したクラスは「容易に成功」の値が33.3%であり、若干高くなっていた。このことから、リーダーを設定することが「容易に成功」の割合を高める要因のひとつである可能性が示唆されたことになる。また、M.Metzler<sup>5)</sup>によるとALT-PEの標準値は30%とされていることから、リーダーを設定しなかったクラスのALT-PEの値が23.5%であったことは、授業の過程に問題があったことを示唆するものである。このように、リーダーを設定したクラスでは、設定しなかったクラスに比べ、ALT-PEの値が高くなっていた。さらに、岡沢ら<sup>7)</sup>の研究では、ALT-PEの値を高めるには、クラスの人気は少ない方が有効であると報告されている。しかし、今回の結果ではリーダーを設定したクラスの方が設定しなかったクラスに比べ、人数が多かったにも関わらずALT-PEの値が高くなっていた。

このようなことから、リーダーを設定することによりリーダーシップ機能が存在し、機能することで、学習成果、特に「生徒が体育的内容に有効かつ成功裡に従事する時間の割合」の増加に影響を及ぼしているということが示された。

## 2. 形成的授業評価について

形成的授業評価では、リーダーを設定したクラスが設定しなかったクラスに比べて、意欲関心の次元と協力の次元において高い値を示した。特に、協力の次元においては、リーダーを設定したクラスが評価が4であるのに対し、リーダーを設定しなかったクラスは評価が3と際だった差がみられた。これは、集団的・情意的行動観察法の結果からも明らかのように、リーダーを設定したクラスでは、小集団の中でリーダーが中心となり、生徒同士の関わり合いが頻繁に行われていたためであると考えられる。また、全平均点においても、リーダーを設定したクラスがリーダーを設定しなかったクラスに比べ、有意に高い値を示していたことから、ここでも小集団内にリーダーを設定したことが学習成果を向上させる要因のひとつであることが示唆された。

## 3. 生徒の態度評価について

高橋らは<sup>11)</sup>、体育授業に対する態度構造が「楽しさ」、「成果」、「仲間」、「先生」の4次元から構成され、その中でも、「楽しさ」次元と「成果」次元の諸項目は、体育の「情意目標」、「運動目標」、「社会的行動目標」、「認識目標」に対応しているため、この2つの次元に着目することで、体育目標の達成度が評価できると報告している。加えて、「仲間」次元は生徒の人間関係に関わった態度であり、「先生」次元は教師に対する態度であることも明らかにされた。

今回、授業の中で小集団内にリーダーを設定したクラスと設定していないクラスでは、「楽しさ」次元と「仲間」次元に差異がみられた。リーダーを設定したクラスでは、「楽しさ」態度スコアが「B」であるのに対し、リーダーを設定していないクラスでは「A」であった。下位項目に着目してみると、

リーダーを設定しなかったクラスの方が「ころよ興奮」で有意に高い値を示した。このことから、リーダーを設定していないクラスでは、生徒が十分に運動に従事しており、活動に満足していたと考えられる。このことは、ALT-PEの結果でも示されたことである。また、リーダーを設定したクラスでは、「仲間」態度スコアが「C」であるのに対し、リーダーを設定していないクラスでは「D」であった。下位項目では、リーダーを設定したクラスが「利己主義の抑制」の値が有意に高い値を示していた。このことから、リーダーを設定したクラスでは、小集団内での教え合いや協力が円滑に行われていたと考えられる。

## V. まとめ

本研究の目的は、小集団におけるリーダーシップ機能が、生徒の学習成果にどのような影響を与えるかを検討した。具体的には、小集団内にリーダーを設定した授業と設定しない授業を同一プログラムで行い、その学習成果を比較した。また、学習成果の測定をALT-PE観察、子どもによる形成的授業評価、生徒の態度評価による体育授業診断法によって行った。

その結果は次の通りである。

- (1) ALT-PEの値は、リーダーを設定したクラスが48.2%であり、リーダーを設定しないクラスは39.2%であった。この結果から、リーダーを設定したクラスの方が、ALT-PEの値が高くなることが明らかになった。
- (2) 子どもによる形成的評価は、リーダーを設定したクラスの全体の平均値が2.48で、評価が3であったのに対し、リーダーを設定しなかったクラスが2.32で、評価が2であり、有意な差が認められた。項目別では、「仲良く学習」の項目で、リーダーを設定したクラスの平均値が2.47で、評価が3であったのに対し、リーダーを設定しなかったクラスの平均値が1.82で、評価1であり、有意な差が認められた。
- (3) 生徒の態度評価による体育授業診断の結果から、

「成果」の態度スコアは、両授業ともBで変わらないが、「仲間」の態度スコアはリーダーを設定したクラスがCであったのに対して、リーダーを設定しなかったクラスはDであった。

これらの結果から、小集団内にリーダーを設定したクラスはリーダーを設定しなかったクラスに比べて、ALT-PEが多く観察され、形成的授業評価も高かった。また、生徒の態度評価による体育授業診断についても、リーダーを設定したクラスがリーダーを設定しなかったクラスに比べ高い値を示す傾向にあった。このことから、小集団内にリーダーを設定することは学習成果を向上させるひとつの方法であることが確認された。

しかし、今回の調査は小集団内にリーダーを設定したクラス、リーダーを設定しなかったクラスともに1クラスずつのみでしか観察しておらず、事例研究の域を出ないものであったために、今後は今回の結果を仮説とし、事例を増やすことで更なる一般化を図っていかなければならない。さらに、今回の調査では課題達成機能や集団維持機能といった、リーダーシップ機能を内容や類型については検討していないために、今後、リーダーシップ機能の内容別に検討を加えていくことが必要である。

## <注>

注) ALT-PE観察法の一致率

ALT-PE観察法の信頼性を維持するために、観察者相互間の一致率がS-I法 (Scored-Interval method) によって算出された。算出方法は、 $[S-I = \text{一致} / \text{一致} + \text{不一致} \times 100]$ の計算式によって行われた。なお、通常、研究目的のためにはその一致率が80%の水準を維持することが必要であるとされ、本研究でも全ての項目についてこの水準を維持した。(Metzler, M.W., "An interval recording system for measuring academic learning time in physical education," in Darst, P.W., Mancini, V.H. and Zakrejsek, D.B. (Eds.), Systematic observation instrumentation for physical education Leisure Press : New York, 1983.

Pp. 187-90)

<参考・引用文献>

- 1) 長谷川悦示・高橋健夫・松本富子；小学校体育の形成的授業評価及び診断基準作成の試み，文部省科学研究費（一般研究B）研究成果報告書，1994，pp.139-147.
- 2) 日野克博・高橋健夫・平野智之；よい体育授業を実現するための基礎的条件の追証的検討，筑波大学体育科学系紀要20，1997，pp.57-70.
- 3) 小林篤；体育の授業研究，大修館書店，1978，pp.169-222.
- 4) 小林さえ；幼児集団におけるリーダーシップ機能についての実験研究，教育心理学研究，1958，pp.195-199.
- 5) Metzler,M,W；The measurement of academic learning time in physical education, Doctoral dissertation, University Microfilms international, No.8009314:Michigan, 1979. pp. 42-55.
- 6) 三隅二不二他；組織におけるリーダーシップの研究，日本社会心理学会，勁草書房，1970，pp.91-112.
- 7) 岡沢祥訓・高橋健夫・大友智；体育授業における生徒行動や生徒の授業評価に及ぼす要因の検討，奈良教育大学紀要37-1，1988，pp.45-59.
- 8) 岡沢祥訓・高橋健夫・大友智・清藤昭裕・芳本真；ALT-PE観察法の簡便化に関する検討，奈良教育大学紀要，39-1，1990，pp.71-81.
- 9) 清水毅四郎；集団化による学習の長所と短所，教職研修総合特集，教育開発研究所32，1987，pp.82-86.
- 10) Siedentop（高橋健夫他訳）；体育の教授技術，大修館書店，1998.
- 11) 高橋健夫・鐘々江淳一・江原武一；生徒の態度評価による体育授業診断法の作成の試み，奈良教育大学紀要35-1，1986，pp.163-181.
- 12) 高橋健夫著；新しい体育の授業研究，大修館書店，1991.
- 13) 高橋健夫・長谷川悦示・刈谷三郎；体育授業の「形成的評価法」作成の試み，文部省科学研究費（一般研究B）研究成果報告書，1994，pp.129-138.
- 14) 田中裕次；学校教育におけるリーダーシップの研究，日本社会心理学会，勁草書房，1970，pp.91-112.
- 15) 丹羽劭昭・安森信子；リーダーが集団成員の態度変容におよぼす影響，教育社会心理学研究8-2，1969，pp.235-248.